

令和4年度 第1回 第1層協議体 議事要約

日時：令和5年2月10日（金）

午後2時～午後3時

場所：枚方市保健センター 4階 会議室

発言者	内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、令和4年度第1回第1層協議体を開催します。</p> <p>本日はご多用の中、本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日、司会進行を担当させていただきます枚方市 健康福祉部 健康づくり・介護予防課の遠藤です、よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに健康づくり・介護予防課長より挨拶をさせていただきます。</p>
健康づくり・介護予防課長のあいさつ	
事務局	<p>只今の課長の挨拶にありました通り、新型コロナウイルス感染防止対策については日ごろから皆さまも相当なご苦労いただいていることかと思えます。そういった状況での開催となりますので、会議時間の短縮等の感染防止対策を図りながらの進行とさせていただきます。皆さまのご意見を十分にお伺いする時間が取れないこともあろうかと思えますので、いつでも遠慮なく事務局である健康づくり・介護予防課にご連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、本日の案件とお手元の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>案件としましては、委員の交代もあったことから各所属団体の活動紹介を事務局の方からさせていただきます。</p> <p>続きまして、令和3年度の介護予防・日常生活総合支援事業の報告となります。</p> <p>それから案件2としましては、摂南大学の上野山先生が令和3年の秋から高齢者居場所のインタビューをされた報告書が出来上がったということで、そのご報告をいただくこととなります。</p> <p>資料としましては、「式次第」、「座席表」、「介護予防・日常生活総合支援事業の実績」、「居場所からはじめる地域づくり」の4つをお配りしておりますが、揃っていませんでしょうか。</p> <p>これから案件を進めていきますが、第1層協議体を進めていく中で各団体の活動についてご理解いただくことは、課題解決をより円滑なものにしたいと思いますので、改めて構成機関の活動内容をご紹介しますとともに本日の出席者のご紹介をさせていただきます。</p>

事務局	<p>それでは、事務局から各団体のご紹介をさせていただきます。</p> <p>始めに、枚方市訪問介護事業者会です。訪問介護事業者の質の向上を図るため、訪問介護員を対象とした研修、管理者を対象とした研修など様々な研修会や勉強会を開催され、事業者間の交流を図るための交流会も開催されております。</p> <p>次に、枚方市特別養護老人ホーム施設長会です。特別養護老人ホーム、地域密着型介護老人福祉施設の施設長で組織され、会長、副会長、事務局の3役が役員を務め、年4回ほど定期的で開催されております。会では人材確保のあり方、ケアのあり方、サービスの質等に関して、一つの事業者だけで考えるのではなく団体として対応すべく、福祉就職フェアの開催や職員を対象とした研修など様々な質の向上の取り組みを行っております。</p> <p>次に、枚方市通所・訪問リハビリテーション連絡協議会は、在宅生活をもう一度送れるようにするといったリハビリテーションの理念に基づき、通所や訪問のリハビリテーションの事業者の介護職やリハビリテーション専門職が集まり、様々な取り組みを行っております。</p> <p>次に、枚方市デイサービス連絡協議会です。集まろう、学ぼう、つながり合おう、を会のテーマとし研修会や勉強会、懇親会などを行っております。本日も都合により欠席されています。</p> <p>次に、枚方市介護支援専門員連絡協議会は、主に居宅介護支援事業所のケアマネジャーで組織されており、当該連絡協議会では、自立支援、利用者本位のサービス提供ができるよう、様々な研修等を行っております。また、枚方市介護支援専門員連絡協議会の圏域委員会とは、枚方市の日常生活圏域である13のエリアに1人ずつ、合計13人の圏域コンダクターを配置し、ケアマネジャーから地域の課題を抽出していくことを主としている委員会です。</p> <p>次に、枚方市民生委員児童委員協議会は、市内の民生委員児童委員で構成される組織です。相互の連絡調整を図り、地域に根ざした福祉活動を展開し、社会福祉の増進に努めることを目的に活動されています。</p> <p>次に、枚方市老人クラブ連合会です。令和4年3月末時点で、市内の老人クラブ190団体、約10,200人で構成されている団体です。枚方市老人クラブ連合会では、グラウンドゴルフ大会などのイベントを通じて、情報交換、交流などを行っております。</p> <p>次に、枚方市コミュニティ連絡協議会は、各小学校区に設置されている校区コミュニティ協議会の会長の集まりとなります。枚方市コミュニティ連絡協議会では、各校区のコミュニティ協議会の自主的な活動を促進し、校区間の情報交換と連絡調整を目的に活動されています。</p> <p>次に、枚方市校区福祉委員会協議会です。枚方市校区福祉委員会協議会は各小学校区に設置されている校区福祉委員会の集まりとなります。当該協議会では、会議や研修会などを開催し、校区間の情報交換や連携を目的に活動を進めております。</p> <p>次に、特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブは、全国及び海外に拠点があり、「自立・奉仕・助け合い」をモットーに人生経験豊富な方の社会参加を進</p>
-----	--

	<p>め、会員同士の助け合いである独自の時間預託制度を行っておられます。枚方拠点における活動としては、指定生活援助訪問事業のほか、各種同好会があると聞いております。</p> <p>次に、大阪高齢者生活協同組合は、超高齢社会を支える協同組合です。歳をとっても働けるうちは働く、元気な間は働こう、豊かに、いきいきと、元気に暮らしていける「まち」を創るために様々な活動をしておられます。</p> <p>次に、枚方市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を目的として設置された営利を目的としない民間組織です。枚方市民生委員児童委員協議会、枚方市校区福祉委員会協議会の事務局も担っておられます。また、福祉のなんでも相談員であるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が在籍されています。</p> <p>なお、枚方市シルバー人材センターは、本日ご都合により欠席されています。枚方市シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて生きがいの充実を図るとともに、地域社会の活性化に貢献する組織です。</p> <p>それでは、これから、次第に沿って案件を進めていきますが、本日も構成機関団体、事務局の地域包括支援センターから見学者が視聴していることを報告させていただきます。</p>
事務局	<p>それでは続きまして、案件1の介護予防・日常生活支援総合事業等の実績報告をさせていただきます。</p> <p>サービス事業や一般介護予防事業は、令和2年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により実績が落ち込んでいるところがあるものの、本市では令和2年4月に全国に先駆けて、双方向にやりとりできるオンラインでの介護予防教室を実施し、会場参加者とオンライン参加者が交流できるようハイブリット教室も実施しています。令和2年度末からは自治会館や街かどデイハウスなど身近な通いの場をオンライン介護予防教室が体験できるサテライト会場として開催するなど、コロナ禍にあっても途切れなく介護予防に取り組んでいただけるよう事業を実施しています。</p> <p>また、各校区の皆さまにおかれましても様々な工夫により、活動を継続しておられるところが元気づくり・地域づくりプロジェクトの報告書から見受けられます。</p> <p>例えば19ページで磯島校区、23ページ招提校区におかれましては、外出自粛による筋力低下という課題に対して「歩こう会」を計画され、コロナ感染者の少なかったタイミングで開催ができたという報告であります。21ページの春日校区ですと、看護学生による健康講座を実施、他の複数の校区でも地域資源や社会資源を活用した健康講座の開催をされています。22ページの香陽校区では、困りごとに対して支援を行うボランティア制度「おたすけメイト」の運営に継続して取り組んでおられます。香陽校区の活動を参考に中宮校区でも同様の「おたすけメイト」の仕組みを始められるなど、取り組みの発展につながっています。20ページの枚方第二校区や21ページの山之上校区のように、電話あるいはアンケートの郵送などにより、安否確認に取り組まれた校区もありました。高齢者居場所の活動に積極的に取り組まれた校区としては、20ページの香里校区、22ページの東香里校区があります。</p> <p>駆け足となりましたが、実績の報告は以上となります。</p>

	<p>次に、元気づくり・地域づくりプロジェクトにおける課題抽出シートをまとめたものとなります。課題抽出シートは、元気づくり・地域づくりプロジェクトで各校区が抽出した課題とその解決案を記載されています。第1層協議体では、このまとめた課題抽出シートを用いてそれぞれの地域の課題等を共有し、また、さらに違う視点からの解決案の検討、優先順位づけや重要度を検討していきたいと考えています。</p> <p>今回お配りしております資料の中に第1層協議体で検討してほしいと記載されていたものは、第7圏域のさだ西校区の課題となります。</p> <p>さだ西校区では、「参加者のほとんどが女性であって、男性の参加がほとんどないこと」が課題となっていて、解決案としては「他校区の開催の情報の取り寄せ」となっています。</p> <p>そこで、この課題に対するひとつの解決案として考えられるのではないかと「枚方市高齢者居場所づくり事業インタビュー調査の報告」を案件2とさせていただいています。昨年度に調査の実施についてご報告させていただき、令和3年の秋から摂南大学の調査研究事業の一環として開始したものです。11か所の高齢者居場所にご協力をいただき、高齢者居場所の取り組みを支援する最善策を検討するため聞き取り調査を行ったものです。このインタビュー調査の報告書ができあがったため、第1層協議体で直接上野山先生からご報告していただきたいとお願いして、本日お越しいただいたものです。</p> <p>それでは、摂南大学の上野山先生からご報告をお願いします。</p>
<p>摂南大学 上野山先生</p>	<p>皆さん、こんにちは摂南大学の上野山と申します。</p> <p>今日のご報告なんですけれども、パワーポイントの資料を元にご報告させていただきたいと思います。</p> <p>この1枚目で私の所属は学長付きというところになっています。去年までは教育イノベーションセンターという組織にいたのですが、この4月から現代社会学部という9つ目の新しい学部に移ることになっています。今年1年間は授業に加えて、この現代社会学づくりもお仕事としてさせていただいてきました。現代社会学部は、学校の中で色々と勉強するだけでなく、学校の外に出て地域の方々と一緒に何か協働していこうということに力を入れている学部でございます。この枚方市でもいくつかの地域の皆さまと協働しながら学生と活動をということも進んでおりまして、今後もこういう地域の中での活動をしっかり展開していきたいと思いますので、皆さんも学生の力を借りてこんなことしたいよって思うことがありましたら、ぜひご相談いただければ嬉しいなと思います。</p> <p>さて本題ですが、このインタビューは2021年の11月から12月に実施をさせていただきました。実施をするに至った経緯としましては、地域福祉の様々な活動がコロナ禍で止まってしまったこと、多くのボランティアとか地域福祉に関わられている方々がこのまま活動やめていこうかという気持ちになってしまっているということを知りました。これはもう地域福祉の危機だと考えていたところ、枚方市ではコロナ禍でも色々な工夫をされながら居場所づくりの継続だけでなく、地域づくりの視点を持ちながら居場所づくりに取り組まれている方々がいると知りましたので、ぜひお話を伺いたいとインタビ</p>

ューをさせていただくことになりました。

今回のお話というのは、もちろんコロナ禍での対応策という意味もありますけれども、多様化していく地域の中で、今後の地域づくりや居場所づくりのあり方を考える上で、本当に貴重なお話をたくさん聞かせていただいたなと思っています。そのポイントについてご説明したいと思います。

では、7ページをご覧ください。前段のところでも少しお話を共有しておきたいと思います。この第1層協議体に参加をされている皆さまには、社会福祉って何なのかとご説明するまでもないかと思いますが、特に市民の方々は、社会福祉っていったときに福祉に頼るとか福祉の世話になるとかという言葉があるように、いわゆる行政の政策とかサービスのことをイメージされている方は多いと思います。

ただ一方で社会福祉は、もっともっと広い取組みであり、ここに社会福祉イコールというのは、行政がやることだけではなくて、幸せな社会を作るための色々な取組みだと私は思っています。

その中で、法律とかサービスといった制度的な取組みというのは日本の社会福祉の中では非常に大きな役割を果たしていますけれども、同じく制度ではない取組み、地域における支え合いとかボランティア活動というのも、この社会福祉を支える非常に大きな要素になっているかと思えます。そしてまた、非制度的な取組みとか支え合いとかボランティアというのを制度化していこうという行政の流れも出てきています。

非制度的な取組みは、熱意とか思いといった気持ちから取組みが育まれているため、平時ではなくなると取組みを持続していくことが難しいというのを、コロナ禍で改めて感じさせられたところです。どのような時でも、地域の皆さまの熱意や思いを形にしていけること、できる範囲でやっていくこと、ということが重要であると再認識したところです。

もう一つ、皆さまと共有しておきたいのは、この「多様性」というキーワードでございます。昨今、地域課題の複雑化や多様化しているとよく耳にします。その理由は何なのかと考えてみたら、たくさんの理由がある中で、私が一番大きな理由として着目しているものは、価値観と境遇の多様性です。

価値観は自分が大事にしていること、生き方です。日本においてはバブルが崩壊するぐらいまでを成長社会、その後成熟社会に変っていったと言われています。

成長社会ではお金持ちになること、所得とか経済成長みたいなことを一つの価値観として全員が上を目指していた時代であり、成熟社会ではお金を稼ぐために生きていくこと、趣味に生きていくこと、家族のために生きていくことなど、人それぞれの生き方を認めようという時代になってきているのではないのでしょうか。これはすごく良いことですが、裏を返すと人それぞれ違う価値観を持っているので、地域の中でこれを行った方が良いとか、大事とか言っても、その内容が相手に響くことなのかわからないということになります。もう一つの境遇の多様性については、日本は国単位ではまだ経済大国ですけれども、特に子どもの貧困やひとり親家庭の貧困等が非常に深刻だと言われています。

そう考えると、これまでは一億総中流という言葉があったように、だいたい自分の家の所得水準とか生活水準と目の前のいる人の生活水準ってだいたい似たようなものでしたけれども、今は全然違って自分が想像もできないような大変な暮らしをしている人達というのが本当に地域に増えてきているというのが現状ではあります。

だからこそ、社会福祉とか地域福祉に関わる人達は自分たちの価値観を相手に押し付けるということではなくて、相手の価値観ってどんなものなのか、相手がどういう暮らしをしているのかということ想像して、そこに寄り添うということが重要になってくると思います。居場所というのは、まさにこのような相手の思いや困りごとに寄り添うために非常に大切な場所になってくると思います。

続きまして、8ページの内容を簡単に説明します。社会福祉の基本理念みたいなところでは、ノーマライゼーションという表現が使われていますが、最近の流行りはソーシャルロールバリゼーションという言葉です。聞きなれない言葉ですが、これは「ソーシャル」が社会的な「ロール」が役割、そして「バリゼーション」というのは、価値を付けるという意味です。

要は、表面上の社会参加ではなくて、一人ひとりの方に合わせたその人らしい、その人が本当に活躍できる社会とか場を創っていかねばいけない、というのが今、最も求められている社会になります。

今までの社会福祉はマイナスの状態にある人を支援してゼロに持ってくみたいな、助けてあげるみたいなイメージであったものの、今はそうではなくてマイナスの状態にある人や困りごとを抱えている人をプラスの状態に持っていく、その人が生き生きと活動できる地域や社会を創るということが、非常に重要になっていると思います。

そのことは、次の9ページに記載しています。最近、この地域共生社会が国から推奨されています。今までの社会福祉では支える側と支えられる側が固定的であったものの、地域共生社会では、助けたり、助けられたり、支え合いはお互い様という関係となるよう、それぞれが役割を持って活躍できる地域を創っていくというのが基本的な理念となります。公的な福祉サービス、先の私の表現で言えば制度的な取組みと非制度的な取組みをしっかりと連携させる必要があるということです。

地域福祉というのは、地域の中で価値観や境遇の多様性によって生きづらさとか困りごとを抱えている人たちが幸せになれる、誰もが活躍できる地域を創っていくことだと思います。そのような地域を創っていく方法は、本当にたくさんあるので、正解が一つということはありません。ただ、全ての地域に共通する解決策が、もしあるとしたら「居場所づくり」なのではないかなと思っています。

価値観や境遇が違う人の暮らしを想像するためには、その人を知ればいわけです。その人を知るためには、その人と交流することが非常に重要だと思うのです。例えば、講演でお話を聞くのももちろん大事ですが、当事者の方と関わってみるとか、その人と交流しながら、困っていること、強みや得意なことなど知っていくことが大切だと思っています。そこで、対話や交流が誘発されるような「居場所づくり」というのが非常に重要だと思い、枚方市が居場所づくりにしっかりと取り組まれている、地域にたくさ

ん居場所があるということは本当に素晴らしいことだなと思っております。

ここまでが前段として、インタビュー調査の結果についてのお話をしてまいりたいと思います。

18 ページをご覧ください。

インタビュー調査としては、8 校区の方々にお話を聞かせていただきました。質問紙を事前に質問の内容をお渡ししていただきましたので、順にお伺いしていく予定でしたが、ほとんどの地域で 1 問目から話が盛り上がり、話があっちへいたり、こっちへいたり、ということになりました。しかし、その中で本当に生の声といいますか、地域の活動の魅力を伺うことができたので、この方法をとって非常によかったと思っています。

19 ページからが、それぞれの地域における活動の内容と活動の特徴を記載させていただいています。こちらも 1 つずつ説明すると時間がかかりますので、私が好きなところだけ紹介しますので、紹介できなかったところは、後ほどご覧いただければと思います。

まず、枚方第二校区の「枚二みつば」の取組みです。活動の内容の 1 番目にある「3 つの拠点を活用している」というのが非常におもしろかったです。3 つの拠点で毎月カフェや体操、脳トレなどやることを決めておいて、体操や脳トレが終わったら、歩いて最後にカフェの拠点にみんなで集合するみたいなお話をされていて、居場所というのを 1 つの場所に固定するのではなく、多様な居場所をつくるってということが、健康づくりという意味でも、脳への刺激という意味でも、すごく面白い取り組みだなと思いながらお話を伺っていました。

次に、香里校区の「ホットカフェ」が非常におもしろいなと思ったのは、ミニネイルサロンをやってみたり、キルトアートをやってみたり、飲み物とか食べ物にすごくこだわっているというお話を伺いました。今までの居場所やサロンは、おじいちゃんおばあちゃんが集まって何となくワイワイやっているちょっと地味な場所みたいなイメージがありましたけど、このネイルサロンとかはおしゃれで、その人が本当に輝ける場をつくるってというのがこれからの居場所にとってすごく重要なんだろうなと思いました。何となく居場所があって、「まあ自由にしゃべってくださいね」といっても、なかなか人は来ないのに、「ネイルやってもらえるならちょっと行ってみようかな」とか、「美味しいコーヒーが飲めるんやったら行こうかな」って、この「こだわり」とか「おしゃれさ」みたいなこと、楽しみというところが、これからの居場所づくりを考える上では重要だと改めて感じさせていただきました。

次の明倫校区は、商店街の強みを生かして様々な取組みをされているというお話でした。活動の特徴のところにあるように「商売人は物を売るだけではなく、地域とつながるもの」ということをおしゃっていたのがすごく印象に残っていると、この 2 つ目の「満足度」というキーワードがすごくたくさん出てきました。満足度というのは運営に関わっている人たちの満足度を高めていくことも大事だし、そこに参加される方々の満足度を高めていくことも大事です。お互いの満足度を高めていくことによって地域の活動がより持続可能なものになっていく、満足度を高めていくことによって枝葉のように

活動が色々と展開していったというお話を伺っていて、これからの地域考える上では満足度ってすごく重要なキーワードになるなと思いました。

そして津田校区の「ほっこりクラブ津田」は、居場所づくりに関して「健康維持」ということと「地域の一体感」をキーワードに取組まれているというお話を伺いました。昔から住まれている方と新しく引っ越されてきた方が混在している地域で、地域の一体感というのをつくりたいのだというお話をされていました。その一体感をつくるために、「ほっこり新聞」を代表にしっかりと情報発信をしていくことが大事だとおっしゃっていたのと、情報を発信するばかりでなく、皆がどんなことを感じているのか、考えているのかということをしっかり傾聴することからとおっしゃっていてですね、この「情報発信」と「傾聴」、しゃべり合う対話みたいなことを連動させながら実施をしていくことによって地域の一体感というのが芽生えるのだろうなと感じました。

そして川越校区の「ふれあいの家」「ふれあいのつどい処」では、地域の方の個性や得意を知るため、顔を合わせる時にはずっとジロジロ見る、ジロジロ見ながら誰は何が得意と把握をしておいて、地域づくりのときに引っ張ってくるとおっしゃっていて、これもすごく大事だなと思いました。地域福祉に関わられている方は情熱があり自分らが何とかしようと思いがちですけど、決してそれだけではなくて、地域にある得意技を持っている人をどんどん巻き込んでいったらいいんだなということを改めて学んだお話でした。

そして菅原東校区の「ぶらっとホーム」ですけれど、こちらも本当に色々な活動をされています。特に私がびっくりしたというか驚いたのは、コミュニティ JR.という言葉でした。コミュニティ JR.というのは、30代～50代の現役世代でなかなか地域の担い手になり得ないというか、どうしてもぽっかり空いてしまう世代の方々です。菅原東校区の場合は、PTA とかで地域と関わられている人たちが実は自治会とかコミュニティとか地域と関わり続けたいのだけれども、がっつり地域と関わるほどの勇気がないという言葉でいいのかわかりませんが、そこまでの時間的な余裕がないと、でも何かしたいという思いがある。それを叶えるためにコミュニティ JR.と組織化をして、お祭りの手伝いであったりとか、できることをできる範囲でやってもらえるようなというお話を伺って、これはすごくおもしろいなと思いました。どこの地域でもどこの組織でも今担い手不足、後継者不足が大きな問題になっていると思います。それを解決する方法なのかどうかわかりませんが、一つのヒントになるのではと思います。若い世代というのはわりと自由気ままで、勝手な人ばかりというか、今が大変なんですね。また、地域のために頑張るのは、人生の先輩世代が多くて、その人達の価値観と若い世代の価値観はちょっと違うのかもしれないです。でも、若い世代も地域のことを大事に思っていて先輩たちほど地域に関わる勇気はないという人が多いと思うのです。その時に人生の先輩世代が、「自分らと全く同じことをする必要はないんやで、まずはこういうことをやってみたら」とか「お兄ちゃん、お姉ちゃん世代はこういうこと得意なんだ。これやってよ」みたいに、若い世代が活躍できる場とか機会をつくってあげるのが、これからの地域の担い手不足解消のためには大事な視点だと感じました。

そして東香里校区でもお話を伺いましたけれども、こちらはこの元気づくり、居場所づくりの話に加え、地域全体として取り組まれていて、そのキーワードとしては「世代間交流」というのがありました。福祉といえば高齢者や障害のある人っていうイメージが強いのですが、ここの皆さんは違って、子どもも含めて全世代の幸せをつくっていくことが地域福祉ということを、ずっと10数年前から取り組まれてきたというお話を伺いました。だからこそ、子どもが主役になれるような取組みを積極的に仕掛けていってイベントをする、そうすると親世代がついてきて、先ほどのコミュニティ JR.みたいに組織化するわけではないのですが、子ども達を主役にしていくことによって現役世代を地域に引っ張り出してくると、そういう工夫をされていたところが非常に勉強になったと思いました。

そして最後に西長尾校区でもお話を伺いました。こちらは居場所づくりの際に、「健康」や「元気」を大きなキーワードにして取り組まれていました。体操やゴルフ、カーリンコン、散歩とかです。とにかく地域の人やりたいと思うことを全部形にしていると、そこでそれを通じて健康づくりをしているというお話を聞いて、すごく素敵な取組みと思いました。最後に、西長尾校区でお話を伺った時に地域のことを考えていく上では健康づくりに加え、防災のことも大事というお話を伺いました。これもすごく大事な視点で全ての地域で防災にしっかり取り組んでくださいねという意味ではないのですが、健康と教育、健康と防災、健康と防犯とかですね、地域を少し広い視野で見たとときに自分たちの居場所づくりの活動というのがどういうところと連動していけるのかとちょっと視野を広げて見てみるということも大事だということに気づかせていただきました。

27 ページ、28 ページは活動の様子を掲載しているものです。

これらのお話を伺って、それぞれの地域の取組みをそのまま他の地域でも真似してくださいというわけではないのですが、地域づくりや居場所づくりをしていく上でのヒントになるようなことを、たくさん聞かせていただいたのかなと感じています。最後にその辺りをお話したいと思います。

ポイントを8つ、私なりに考えてみました。お話を伺った中で思いついたポイントです。

まず、一つ目は「テーマを明確にする」ということです。居場所づくりなのですが、居場所をつくるというのが最終の目標ではなくて居場所づくりを通じてどんな地域を創っていききたいのか、ミッションであるとかヴィジョンみたいなところも含めて、軸足がしっかりしていると、成果がどんどん上がってくると思います。健康なのか、一体感なのか、世代間交流なのか、自分達の地域づくりのテーマが何なのかと改めて考えることが重要かと思います。

そして2つ目は「こだわりを持つ」ということです。先ほど紹介させていただきました「こだわり」というのは、本当に居場所の個性になってくると思いますし、運営者の皆さまも参加者の皆さまも活動に参加したいというモチベーション高めるものになります。こだわりについては、作業とかで作品を作る場合も適当な物を作るのではなくて、本物を作るとお話されていた地域もあって、作るとみんな家に持って帰って、捨てずに

飾ったり使用したりしてくれる。捨てずに置いているから、あの時これ作ったなど自分と地域との繋がりを感じることができるからとおしゃっていて、それはすごく大事な視点だと思いました。こだわりを持つことが参加者の楽しさにつながり、訪れたいくなる居場所の基本になってくるんだろうなと思います。

そして3つめは「垣根を超える」ということです。運営者、参加者という言葉 これまで私も使ってきましたけれども、地域共生社会の理念を考えると、役割を分けるのではなく、できる人ができることをやったらいい、そこでみんなで楽しい、みんなで創っていくということを感じていけば、居場所づくりから発展していき、地域の中でもできることや得意なことをできる人がするといった地域にも発展していくのではないかと思います。

そして4つめは「得意を把握する」ということです。これからの地域づくりでは得意なことを持っている人がそれを発揮できる場を創っていくことだと思います。だからこそ、地域のキーパーソンの皆さまは目を光らせて、どこにどんな得意があるかというのをしっかり探すということが重要なんだろうなと思います。

そして5つめは「選択肢を提示する」というのもです。これもすごく大事だと思っていて、枚方市のように本当に地域活動に熱心な方が多い地域では、1つの校区の中に色んな居場所、居場所は空間的な拠点だけではなく趣味のサークルやスポーツする集まりとか、お友達の集まり、そういうものを含めて色んな居場所があると思います。どうしても自分たちの居場所に来てよって思いがちなんですけども、みんながみんな自分たちの居場所が一番相性が良いかといえば、それはまた別の話で、もっと大事なことはこの地域の中にはうちの居場所もあるけれど、こんな場所もある、こんなところもある、という選択肢を提示して、その上で一人一人の住民が、それなら自分はここに行きたいと判断できる材料を提供していく、提示していくということが重要だと思いました。そのためには適切な情報発信の在り方というのも大事ですし、今流行りのSNSだけではなくてポスティングや口コミ、アナログな方法こそ選択するためには大事な材料になると私は個人的に思っています。

6つ目は「地域内外につながりをつくる」ということで、どうしても地域福祉とか町づくりは地域の中で完結してしまおうと思いがちですが、決してそうではなくて色んな地域の人たち、それは枚方市内だけではなく他市や学生たちとか地域の外の人たちの力を借りながら、みんなで取組んでいくことが大事だと思います。

そして7つめは「子どもを大切にする」ということで、先ほども申し上げたように、子どもが関わってくると町の大人は動くというのは、みなさんもよくご承知のことかと思えます。今地域が抱えている担い手不足という大きな課題を解決するためにも、子どもたちが将来、この地域好きやわ、ここで育って良かったわって思ってもらえるような仕掛けをたくさん創っていく、仕掛けていくというようなことが、これから地域を考えていく上でも重要だと思います。

そして最後ですが「真剣に楽しく取組む」ということです。ここでも明倫校区で聞かしていただいた「満足度」というキーワードを使わせていただきますが、みんなの

	<p>満足度が高い居場所じゃないと必要だとわかってても無くなっていくのではないかと思います。やっぱり楽しい、真剣に取り組める場所だからこそ継続していくと思いますので、地域のためにこれが必要というテーマを考えることも大事ですが、それと同時に並行して運営者の方、参加者の皆さんが満足度を高めるにはどんな仕掛けがあるかということを見ると良いだろうなと思いました。</p> <p>最後に、冒頭に申し上げたようにこれを真似してくださいとかこれが絶対の正解ですとは言いたいわけではありません。ただ、この報告書に書かれてある内容を、地域や団体のみinnで読み解いてみて、自分たちの地域ならこうやなとか、こんなこともやっているよねっといった話し合う、考えるきっかけにしてもらえたらなと思います。</p> <p>本当に皆さんのおかげで、すごくいい報告書が自分で言うのもなんですけど、できましたので、これをみなさんで読んでいただいて、また疑問点やこれはちがうぞというようなこともありましたら、言っていただけたらなと思います。ということでちょっと駆け足になってしまいましたけれども、私からの報告は以上とさせていただきますと思います。みんな、本当にご協力いただきましてありがとうございました。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>ちなみに高齢者居場所の登録には、介護予防活動を取り入れてくださいという要件がありますので、高齢者居場所ではご当地体操である「ひらかた元気くらわんか体操」に取り組んでおられます。</p> <p>また、高齢者居場所は交流を目的に人々が集まれる場所で、人が人をつなぎ、関りを持つことで、社会参加の機会となり、それによる介護予防の効果につながる場所でもあります。さらに、そこから自然と助け合いや支え合いの体制づくり、地域づくりにつながっていくことを目指している重要な拠点と考えています。</p> <p>今回、さだ西校区からの課題解決策の一つとして、今回高齢者居場所のインタビュー調査の報告をしていただきました。</p> <p>また、この報告は、本日参加されている団体や組織に持ち帰っていただき、元気づくり・地域づくり会議でも共有を図っていこうと思っております。</p> <p>引き続き、この第1層協議体でさまざまな地域の課題等を共有し、検討を行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、次回の予定をお伝えします。3月17日の金曜日、時間は同じ14:00～15:00です。後日案内をお出ししますが、案件としては、地域課題の検討と第2層協議体事務局等の委託契約の内容を予定しております</p> <p>どうぞ今後ともよろしくお願いいたします、本日はありがとうございました。</p>